

## 水中ドローンやマルチビーム等を活用し、台風等の災害後の離島港湾・泊地の水中部における被災状況を迅速に把握したい！

### 課題



- 島しょ地域では**台風等**により水中工作物等が破損し、航路・泊地の水深が浅くなると、最悪の場合は船舶が接岸できなくなるおそれがある。このため最新DX機器を活用して**岸壁・泊地の水深や水中工作物の破損状況を迅速に確認**したい。
- 併せて、職員の少ない離島でも簡易に調査や情報収集できるよう、DX機器の**運用支援体制**の構築を図りたい。

※ 現地の事業者や関係者と連携して運用することを想定

### 背景

#### 【島しょにおける災害直後の対応の現状】

- 台風通過直後は**海中が濁っている**ことが多く、潜水士による目視確認は時間を要する（令和7年の八丈島台風など）
- さらに、将来は、**潜水士不足**により迅速な調査が困難になることが予測
- 災害時は交通機関の運行が制限され、本土から離島への応援に時間を要するため、**島しょ内で自立した確認体制の構築が必要**
- **離島に配属されている職員は少数**であり、災害時は多くの対応をしなければならない中で、複雑なDX機器の操作やデータ解析業務を実施するのは困難

### 現場からのコメント



- 離島に配属されている職員に負担がかかる解決策（水中ドローン等のDX機器購入のみの提案で機器の運用やメンテナンスなどの対応が含まれていない等）は、想定しておりません。

### 現場情報

※現場への直接のご連絡は行わないでください

総務局各支庁港湾部門  
（大島支庁港湾課、三宅支庁土木港湾課、  
八丈支庁港湾課、小笠原支庁港湾課）

東京都所管の港湾管理業務を実施  
※陸上部についてはドローン点検体制を  
構築中